

企 画 経 済 委 員 会 委 員 協 議 会 記 録

1 会議の日時	開 会 午前 9 時 5 7 分 令和3年6月8日(火) 閉 会 午前 1 1 時 2 8 分
2 会議の場所	議会西棟3階 第2会議室
3 出席者	委 員 長 布 俣 正 也 副委員長 所 竜 也 岩 井 豊 太 郎 佐 藤 武 彦 山 本 勝 敏 水 野 吉 近 伊 藤 英 生 平 野 祐 也
	執 行 部 別 紙 配 席 図 の と お り
4 事務局職員	課長補佐 蕨 野 孝 主任 山 辺 有 紗

5 会議に付した案件		
件	名	審 査 の 結 果
<p>1 コロナ禍における中小企業者・小規模事業者の現状について 参考人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 岐阜県商工会連合会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会長 岡山 金平 氏</li> <li>・ 事務局長 名畑 司 氏</li> </ul> </li> <li>○ 岐阜県中小企業団体中央会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専務理事 川本 敏 氏</li> <li>・ 事務局長 大沼 浩宣 氏</li> </ul> </li> </ul> <p>2 その他</p>		

## 6 議事録（要点筆記）

### ○布俣正也委員長

ただいまから企画経済委員会委員協議会を開会する。

本日の協議会は、委員会の所管事項の調査や施策の評価の充実を図るため、開催したものである。

本日の議題は、コロナ禍における中小企業者・小規模事業者の現状についてお招きした参考人の方からご報告をいただく。

なお、コロナ禍の折、執行部の出席者については、議題に関係する所属に限定しているので、ご了承を願う。

また、本日、岐阜県商工会議所連合会からも参考人の出席を予定していたところ、諸事情により、欠席されるのでご了承を願う。商工会議所連合会から事前に提供を受けている資料については、机上配付とするのでお時間あるときにご精読をお願いする。

次に、本日の参考人をご紹介します。

岐阜県商工会連合会から岡山金平会長、名畑司事務局長、岐阜県中小企業団体中央会から川本敏専務理事、大沼浩宣事務局長、以上4名の方にお越しいただいている。

本日は何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは、各団体15分を目途に報告をお願いする。

質疑については、報告の終了後に一括してお願いする。

（議題に関する報告：岐阜県商工会連合会事務局長 名畑司氏、岐阜県中小企業団体中央会専務理事 川本敏氏）

### ○布俣正也委員長

続いて、質疑に入る。

ただいまの説明に対して、質問等はあるか。

### ○水野吉近委員

県内企業から、金融機関で融資を断られる、審査に時間がかかるなど資金繰りに苦慮しているという話を聞くが、どう認識しているか。

### ○名畑司氏

昨年4月頃は金融機関の窓口が混雑しているとの話を聞いたが、最近は混乱はないのではないかと。審査の状況はわからないが、支障はないという認識である。

### ○川本敏氏

中央会としても特段そのような話は聞いていない。

### ○水野吉近委員

中央会では国の一時支援金の事前確認業務を行っているが、申請状況は。

### ○川本敏氏

53件の申請があった。

### ○水野吉近委員

どのような業種が多いのか。

### ○大沼浩宣氏

様々な業種からの申請があるが、タクシー業者の組合から40件程度の申請があった。

### ○水野吉近委員

一時支援金には売上50%以上減少の要件があるが、この50%という要件への認識は。

### ○川本敏氏

事業者全体として要件緩和が求められていると思う。

○水野吉近委員

ワクチンの職域接種については組合の協力が必要であると思うが、中央会の考えは。

○川本敏氏

例えば、可児工業団地には5,000人の労働者がおり、規模の大きい団体では職域接種を検討しているが、打ち手の確保や接種場所などのインフラ整備等も企業に求められるため、国や県からも支援をいただきたいとの声がある。

○岡山金平氏

職域接種では、国は1,000人以上の大企業を中心に推奨しようと省庁毎に希望をとっているが、事業所規模の引き下げを検討してほしい。また、従業員1,000人以上の企業には専任で産業医がおり、ある程度フォローアップできると思うが、50人以上の企業には非常勤の産業医しかいない。産業医は地域の開業医が多いが、コロナ禍で多忙な中、開業医の方に企業のワクチン接種を依頼できるのか。ワクチンの打ち手については要件を緩和していくとのことで、打ち手が増えるのであれば、職域接種の事業所規模の引き下げが可能になるのではないかと。経営者としては事業所規模に関係なく、早く従業員のワクチン接種の目途を立てたいと思っている。職域接種については商工会にも照会があったが、小規模事業者の集まりであり、業種も多岐に渡ることから、行政の集団接種と同じこととなり結局混乱を招くと思う。ワクチン接種は市町村であるが、県でスキームを作してほしい。

○平野祐也委員

国、県、市で様々な支援策があると思うが、人気があるものや期限を迎えるもので延長してほしいという声が多いものはあるか。

○名畑司氏

国の持続化補助金や県のアフターコロナ・チャレンジ事業者応援補助金を使いやすく評判が良い。また、コロナの収束が見通せない中、雇用調整助成金については雇用継続に向け延長を希望する声がある。

○岡山金平氏

令和元年に創設された県の小規模事業者持続化補助金は、元々は国の持続化補助金の採択率が低く、残念ながら採択されなかった事業についても拾えるようにということもあったが、県で持続化補助金を早く処理できるスキームを作ってもらったので、現在はむしろ逆に県の持続化補助金で採択されなかった事業者が国に申請している事例もある。

○川本敏氏

同じく持続化補助金のほか、ものづくり補助金についても継続して高い需要がある。

○平野祐也委員

事業再構築補助金については要件が厳しいが、申請まで辿り着いた企業数はどれだけあるのか。

○名畑司氏

途中で挫折する事業者も多く、認識している申請は十数件程度である。非常にハードルが高いので下げてもらえると申請事業者も増えてくるのではないかと。

○佐藤武彦委員

企業20社程度にヒアリングをしたところ、昨年と比べて今年のほうが景況感は悪いという印象であったが、どのような認識か。

○岡山金平氏

特に宿泊業や飲食業は先が見えず、廃業を考えているところもあり、国、県の支援金でなんとか持ち堪えている状況である。今後、まん延防止等重点措置が解除になれば、まん延防止等重点措置に伴う協力金や支援金などもなくなると思う。一方で、解除後すぐに需要喚起策などの経済対策は打てないと思うので、コロナ収束までの間の措置をなんとか講じてほしい。

○山本勝敏委員

商工会の会員数が増えているとの話があったが、どのような地域、業種が増えたのか。

○名畑司氏

すべての商工会で増えているわけではなく、国、県の支援策を活用するための相談窓口として商工会に新たに加入していただくことが多い。地域としては、元々加入率が低かった都市部の地域で会員が増えている。業種としては、小売業は次の担い手がないということで事業継続が難しい中ではあるが、その他の業種も含め補助金の活用に向け、加入が増えている。

○岡山金平氏

今日は欠席となったが商工会議所でも同じ傾向にあるという話を聞いた。ただ、会員数の増加が続いていくとの認識はなく、危機感を持っている。

○山本勝敏委員

多治見市にも4つの陶磁器の工業組合があるが、単独での組合維持が難しい状況にある。中央会の加盟組合でも維持が難しいところもあるのではないかと。

○川本敏氏

中央会では今年に入って加入団体が増えたが、基本的には減少傾向である。加入のメリットが見えにくいのも原因だと考えられるので、組合で仕事を受注して加盟企業で分担するなど相互扶助の事例もあることなど、中央会の活動をわかりやすく打ち出していく必要がある。

○岩井豊太郎委員

コロナの影響を特に受けているのは、商工業、観光業かと思うが、今後ワクチン接種が進み、例えばオリンピックが開催されれば国全体が明るい方向に向かうのではないかと。国全体のムードも大事で、今後商工業、観光業の再興、伸びていく可能性もあるのではないかと。

○岡山金平氏

ムードも大事であるし、ワクチン接種を早く行うことも重要である。地域を支えている小規模事業者の廃業は地域の住みにくさにもつながっていく。小規模事業者を守っていく仕組みづくりをお願いしたい。

○伊藤英生委員

外国人の感染が多いことが課題となっているが、従業員のワクチン接種など外国人関連の課題はないかと。

○岡山金平氏

派遣会社や製造業などの外国人従業員が多い事業所での職域接種をしっかりと進める必要がある。

○川本敏氏

コロナ対策として、可児工業団地では外国人も働いているが、従業員感染時のマニュアルを作成し、風評被害が広まらないようにしている。

○所竜也副委員長

アフターコロナを見据えた支援を考えていかないといけない。飲食業、観光業が求めている支援はどのようなものか。

○岡山金平氏

それぞれの業種が切磋琢磨して新分野展開などを行っているが、長年事業を継続している小規模事業者には本来持っている優れた部分があるはずであり、そこに気づかせ、磨きをかけていくことが重要だと思っている。

○布俣正也委員長

大打撃を受けている観光業は、観光客が戻るまでどうにか我慢している状況であるが、その中でも飛騨市では独自政策として「まるごと応援セール」として、各店舗で趣向を凝らしたセールを実施した。

コロナ禍でも創意工夫で成果を出しているところもある。アフターコロナに向けた伴走型の支援として戦略はないか。

○岡山金平氏

コロナ禍で多くの事業者は今日のことしかみえていない中、長年続けてきた事業者の良い部分を、少しずつ変えながら磨きをかけていくための伴走型支援をしていきたい。

○佐藤武彦委員

コロナ禍においてインバウンドの回復には時間が掛かるが、国内観光誘客をどのように進めるか。

○渡部観光企画課長

当面は国内誘客が重要と考えており、今すぐの誘客はできないものの、愛知県を始めとする近隣県や首都圏、関西圏に忘れられないようPRを続けつつ、時期を見極めながら、また業界の声を聞きながら、需要喚起や誘客をしっかりと実施していきたい。

○布俣正也委員長

質疑も尽きたので、これをもって質疑を終了する。

本日は大変貴重なご報告をいただき、参考人の皆様に感謝申し上げます。

以上で、本日の議題は終了したが、他に何か意見等はないか。

また、執行部の方、よろしいか。

(発言する者なし)

○布俣正也委員長

ご意見も尽きたので、これをもって、本日の委員協議会を開会する。

# 企画経済委員会委員協議会 配席図

令和3年6月8日(火)  
議会西棟3階 第2会議室

